

2023
特選

金融広報中央
委員会会長賞

第21回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

国境なきランドセル

神奈川県・神奈川県立柏陽高等学校 2年 山口 碧大

私はランドセルを寄付した。日本からアフガニスタンへだ。

時を遡る。私は小学1年生になる前であった。私はとても楽しみな気持ちでランドセルを買いに行った。私はすぐに選んだ。黒と赤のランドセルである。少し値段が高く祖母は他のものも見るように言ってきたが、結局祖母に無理を言っ
て買ってもらった。嬉しくて大空に羽ばたくかのような気持ちであった。(まさに天使の羽を身につけていた) この黒と赤のランドセルは私の小学校生活を毎日支えてくれた大切な思い出である。

小学校を卒業した時、突然母から「ランドセルを寄付するよ」と言われた。私はもちろん「やだ」と一言放った。自分のものをただで他の人にあげるのはもったいないと思ったからである。後日、学校で友達にランドセルをどうするかと聞くと思い出として取っておくと言う人ばかりであったし、寄付すると私たちが送料を払わなければいけないのに何故寄付なんかするのだと不思議であった。すると母はある動画を私に見せてくれた。

それは中東に住む、ランドセルを持っていない小学校の子どもたちが、寄付されたランドセルを貰ってはしゃぎながらみんなで喜んでいる動画であった。私はこれを見てランドセルを寄付することを決めた。同じ世界なのにランドセルすら得ることができない人がいると初めて知って強く心を打たれ、自分も彼らの役に立ちたいと思ったからだ。そして鉛筆や筆箱をランドセルの中にプレゼントとしてこっそり入れて中東のアフガニスタンに私の黒と赤のランドセルを寄付した。

ランドセルは数ヶ月かけて、日本から遥々パキスタンへ向かい、アフガニスタンの険しい山道を通って現地の子どもたちの手に渡った。

その後ニュースで偶然、アフガニスタンの子どもたちが寄付されたランドセルを使っている動画を見た。青空教室で机がないため、ランドセルを机替わり

に使っていたり、大切に背負って通学したりする様子を見ることができた。私のランドセルもこのようにして活用されて現地の子どもたちが喜んでいる姿を想像すると寄付して本当に良かったと強く思った。

これがきっかけとなって私は発展途上国へのランドセルを通じた経済支援や貧困地域での教育状況に興味を持ったので調べることにした。

発展途上国の中の貧困国、貧困地域では貧しくてランドセルなどの通学カバンが買えず行き帰りの長い通学路をビニール袋に教科書や文房具を入れて登校することが多いこと¹⁾、教育を受けたくても経済的に受けられない子どもがいること、こうした理由で教育を受けず十分な収入を得られないことで、その子どもも必要な教育が受けられないといった世代をまたぐ貧困ループが起きていることが分かった。具体的に、アフガニスタンでは7歳から17歳の子ども、370万人が学校に通っていないと分かった。これはつまり、7歳から17歳の子どもの約半数、2人に1人が教育を受けられていないということだ²⁾。(世界では子どもと若者の約2億6,400万人が学校に通っていない)³⁾

しかし、家計を支えるために労働力として子どもが必要であることや、親が教育を受けてこなかったため教育の重要性が理解できないなどの理由で子どもの就学に同意しない親たちも、寄付されたランドセルを背負う子どもを見て、学校に行かせて勉強させてやりたいという気持ちになるという。また、女性に教育が必要ないと考える地域では、男の子にも女の子にもランドセルを平等に配ることによって、「女の子も男の子と同じように学校へ通うのが当たり前」という考えが地域で根づき始めるそうだ⁴⁾。

私は、このように、ランドセル寄付によって親が子どもを学校に行かせようとする原動力となったり、先進国と発展途上国との教育格差を是正する架け橋となったりするだけでなく、発展途上国のジェンダー問題に対する考えを変えるきっかけともなりうると知って驚いた。そして、私はランドセル寄付の他に日本が行っている経済支援はどのようなものか気になった。

そこで、学校の社会の授業で以前に習ったODAについても調べることにした。

ODAとはOfficial Development Assistance（政府開発援助）の頭文字を取ったものである。ODAは政府または政府の実施機関によって発展途上国に供与されるもので発展途上国の経済・社会の発展や福祉の向上に役立つための資金や技

術提供による協力のことである。日本のODAでは発展途上国に返済義務のない支援や低利で返済期間が長いという発展途上国に優しい条件で資金を貸す支援を行っているようだ⁵⁾。

資金を返済義務なしで提供することのような無償資金協力は日本にとってデメリットとなると考える人も多いという。

しかし、私は違う。実際、日本も東日本大震災の時、発展途上国を含め世界163の国や地域から支援を受け、援助を受ける側の立場となった経験がある⁶⁾。世界の他の国との助け合いの中にある日本だということを考えれば本当にデメリットであるのだろうか？

このように私はランドセル寄付を通じて、発展途上国と先進国との間に予想以上の教育格差があること、日本政府による発展途上国への経済支援について学んだ。私はこのような経済支援活動を継続して行い、皆がより深く考え理解するべきだと思った。私は今後このような経済支援をもっとたくさんの人に知ってもらえるような活動をしていきたい。

1人のランドセル寄付によって1人の子どもの未来と笑顔を創れる。立派な経済支援である。

(注)

1) 4) JOICFP「ランドセルはどう使われている？」

URL https://www.joicfp.or.jp/jpn/donate/support/omoide_ransel/why/use/

閲覧日 2023年8月12日

2) 日本ユニセフ協会「アフガニスタン 子どもの半数、370万人学校に通えず」

URL <https://www.unicef.or.jp/news/2018/0096.html>

閲覧日 2023年8月13日

3) 日本ユニセフ協会「世界的教育危機 学校に通えない子どもと若者、2億6,400万人 これまでの成果と安定を揺るがす事態」

URL <https://www.unicef.or.jp/news/2017/0202.html>

閲覧日 2023年8月13日

5) 外務省「日本のODAについて」

URL https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/monitor/15m_hokoku/japan_ODA/index_main.html

閲覧日 2023年8月14日

6) 外務省「早わかりODA」

URL https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/11_hakusho/hayawakari/hayawakari.html

閲覧日 2023年8月14日